

令和6年度美里町住民意向調査 調査結果報告書（概要版）

次期美里町総合計画・美里町総合戦略(計画期間:令和8年度から令和12年度まで)の策定に向けて住民意向調査を実施しました。

調査は町内在住の満18歳以上の方を対象に、性別、年齢階層、居住地域を基に4,000人を無作為抽出して行いました。調査期間は令和7年1月29日から2月17日まで、回答方法として従来の紙の調査票に加えWEB調査も実施しました。

調査項目と回答者数

調査項目

- ・「属性調査」は性別、年齢(階層)、居住地区、職業、家族構成、居住年数について実施
- ・「満足度調査」は現行の12の政策を16項目の取組に整理し、その満足度を100点満点で採点する方式で実施
- ・「優先施策調査」は16項目の取組に紐づく施策について、優先すべきと思う取組を3つ選択する方式で実施
- ・「重要度調査」は16項目の取組の重要度について、特に重要と思う取組を1番目から3番目まで選択する方式で実施

回答者数と回収率

- ・全体の回答者数は、調査依頼4,000人のうち1,360人が回答(回収率34%)
- ・WEB調査による回答を依頼した2,850人のうち715人が回答(回収率約25%)
- ・紙またはWEB調査による回答を依頼した1,150人のうち645人が回答(回収率約56%)
- ・回答者の約56%がWEB調査により回答
- ・各世代でスマートフォン等の利用が進むことで、コスト削減、集計作業の効率化が図られ有効性が更に向上



回答者の属性（性別・年齢・居住地区）

○ 性別の傾向

- ・「男性」の回答者数が573人（約42%）、「女性」の回答者数が747人（約55%）となり、女性の回答比率が高い傾向
- ・「男性」「女性」のWEB回答比率は同水準

12

年齢別の傾向

- ・18歳から39歳の若年層の回答者数が191人（約14%）
- ・40歳から64歳の中年層の回答者数が524人（約39%）
- ・65歳以上の高齢層の回答者が617人（約45%）
- ・64歳以下の全ての年代でWEB回答比率が90%を超える水準



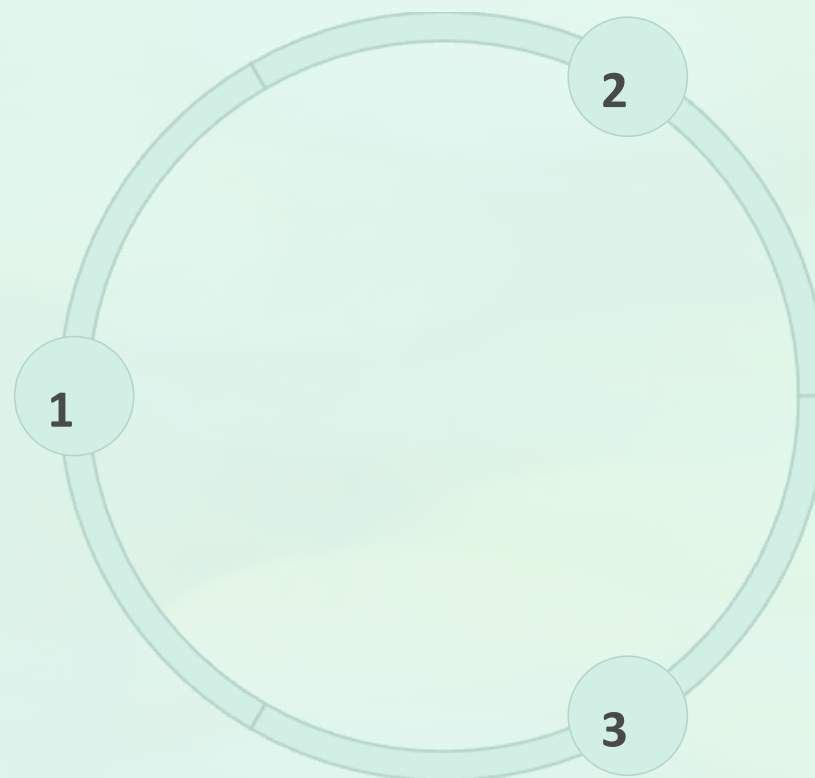
居住地区別の傾向

- ・小牛田地域の回答者数1,053人（約77%）
- ・南郷地域の回答者数267人（約20%）
- ・住民基本台帳人口の地域別人口比率（小牛田約79%、南郷約21%）と同水準

回答者の属性（職業・家族構成・居住年数）

職業別の傾向

- ・「会社員・公務員・団体職員」の回答者数432人（約32%）が最も多く、次いで「無職」の回答者数339人（約25%）が多い傾向
- ・WEB回答比率は「農業・林業・漁業」「無職」が20%未満となる低い傾向



家族構成別の傾向

- ・「3人～4人」世帯の回答者数542人（約40%）が最も多く、次いで「2人」世帯の回答者数412人（約30%）が多い傾向
- ・WEB回答比率は3人以上の多人数世帯が高い傾向

居住年数別の傾向

- ・「21年以上」の回答者数1,025人（約75%）が最も多く、次いで「11年以上～21年未満」の回答者数151人（約11%）が多い傾向
- ・WEB回答比率は居住年数が短いほど高い傾向

満足度調査の全体傾向

66.51

全体平均点

16項目の平均点は66.51点で、各項目とも60点から70点台の水準でした

70.41

最高評価

「第4保健・医療」が最も高い評価を得ました

61.05

最低評価

「第14移住・定住」が最も低い評価となりました

満足度調査では「第4保健・医療」「第2教育環境」「第8子ども・子育て」が上位を占めました。健康増進や医療提供体制の充実、新中学校整備による教育環境整備、待機児童解消等の具体的な取組が高評価につながっていると考えられます。

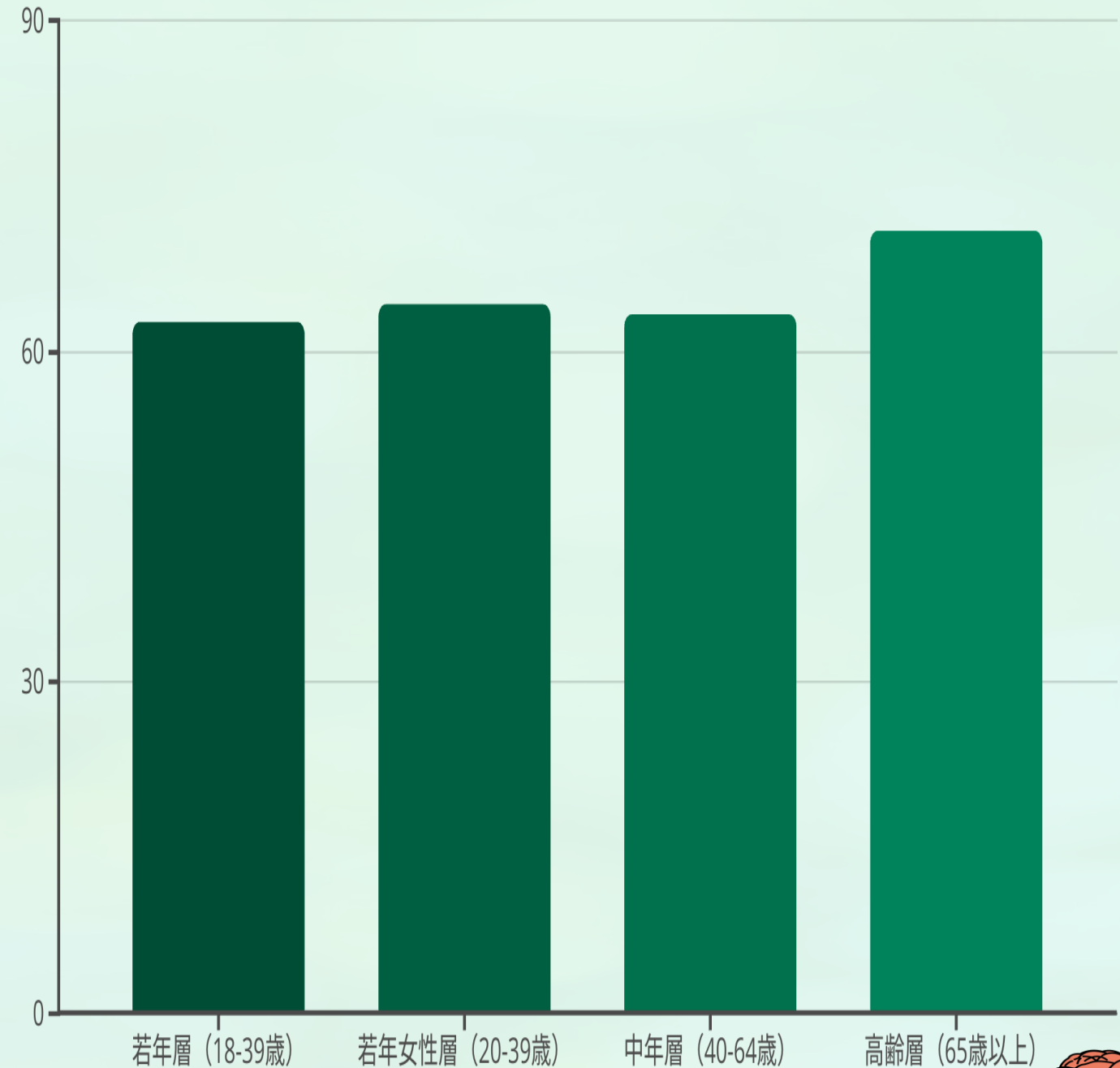
一方で、「第14移住・定住」「第12生活環境基盤」「第16行財政運営」が下位となり、人口減少、生活基盤施設の老朽化、厳しさを増す行財政運営に対する住民の懸念が表れています。

世代別の満足度傾向

世代別の満足度では、高齢層（65歳以上）の平均点が71.02点と最も高く、他の世代に比べ全ての項目で高評価となりました。

一方、若年層（18歳から39歳）の平均点は62.75点と最も低く、特に「学校教育」「子ども・子育て」では高齢層と評価にギャップがありました。

若年女性層（20歳から39歳）では「商工・観光振興」が他の世代と比べ最も高評価でした。トレンドに敏感な世代であり、日常生活における商業施設の利用頻度の高さ、観光分野に対する関心の高さが評価につながっていると考えられます。



重要度調査の結果分析

第5高齢者福祉の充実

1,048点で第1位



第4保健・医療の充実

1,026点で第2位



第8子ども・子育て支援の充実

972点で第3位



重要度調査では「第5高齢者福祉」「第4保健・医療」「第8子ども・子育て」が上位を占めました。65歳以上の高齢層の回答者数が多く（全体の約45%）、自身の生活に直接的に関わる「第5高齢者福祉」の点数が高くなりました。「第4保健・医療」は世代問わず重要度の位置づけが高い傾向にあります。

世代別では、若年層は「第8子ども・子育て」「第1学校教育」「第2教育環境」を重視し、高齢層は「第5高齢者福祉」「第4保健・医療」「第9農業振興」を重視する傾向が見られました。



重要度と満足度のクロス分析

1

第1象限：重要度・満足度ともに高い

- ・「第4保健・医療」「第8子ども・子育て」「第5高齢者福祉」「第2教育環境」「第9農業振興」「第1学校教育」が該当
- ・高齢層を中心に各世代においても関わりが深い取組であり、サービス品質の維持が重要です。

2

第2象限：重要度低・満足度高

- ・「第11防災・交通安全・防犯」が該当
- ・取組の普及により重要度が低下している可能性があり、若年層を中心とした意識啓発が重要です。

3

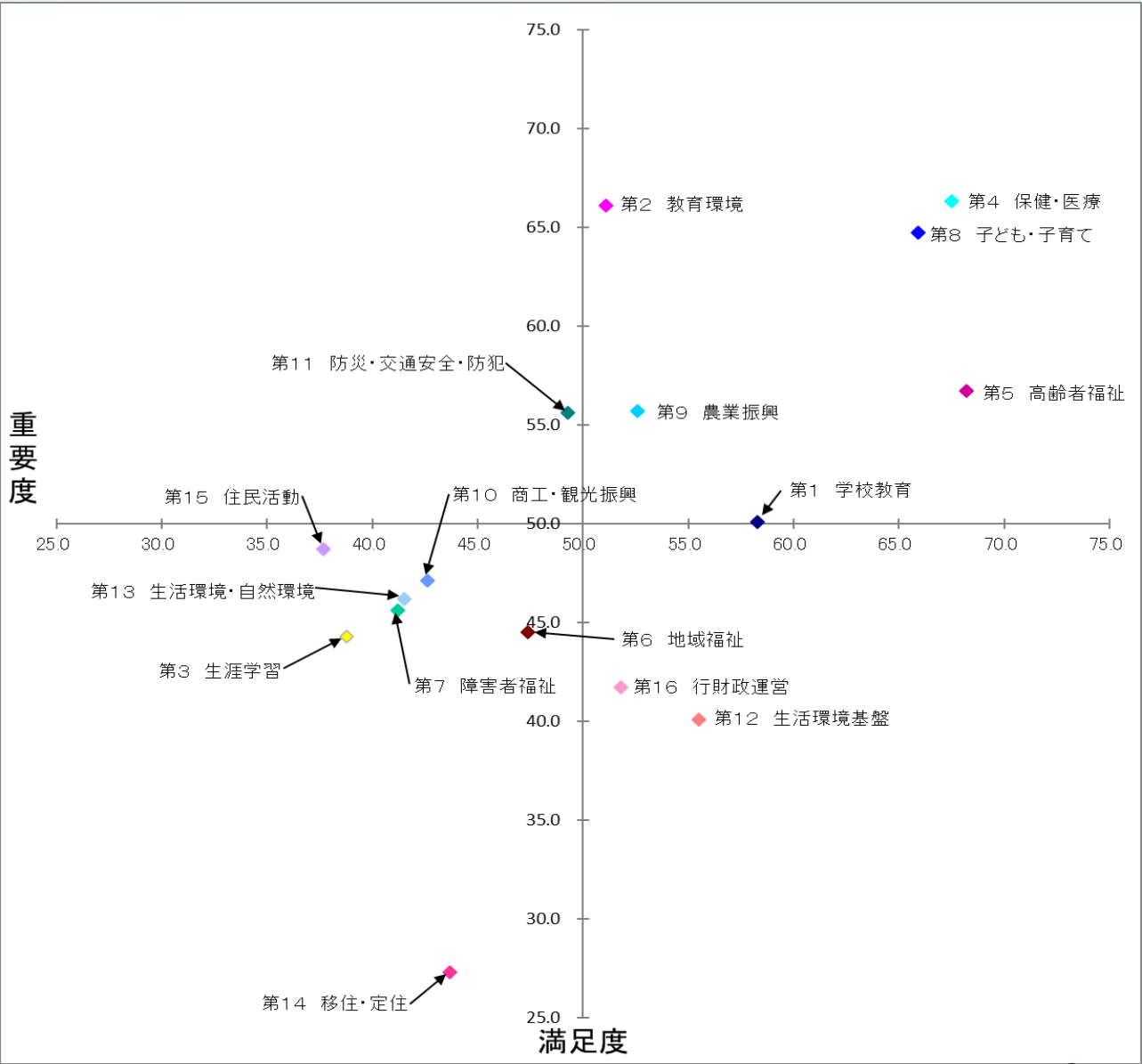
第3象限：重要度低・満足度低

- ・「第3生涯学習」「第6地域福祉」「第7障害者福祉」「第10商工・観光振興」「第13生活環境・自然環境」「第14移住・定住」「第15住民活動」が該当
- ・成果が住民に見えにくい取組であり、取組の再検討と情報発信が重要です。

4

第4象限：重要度高・満足度低

- ・「第12生活環境基盤」「第16行財政運営」が該当
- ・社会的持続性・効率性が求められる取組であり、計画的な財政運営に基づく事業実施が重要です。



重要度・満足度から見える施策検討の視点(抜粋)

1. 全体傾向から見える施策検討の視点

- ・具体的な取組の可視化(事業展開ビジョンの提示)
- ・取組の成果が明確となる指標設定による説明責任の強化
- ・取組の情報発信の重要性(住民が把握・実感できる取組が高評価の傾向)

2. 世代別の傾向から見える施策検討の視点

- (1)若年層(18歳から39歳)
 - ・地域産業や住民活動への関心の高まりの兆し
 - ・現役の子育て世代のニーズに対応した施策展開
- (2)若年女性層(20歳から39歳)
 - ・日常生活や産業分野についてトレンド変化に対応した施策展開
 - ・子育て・雇用支援の充実による将来設計に対する不安の解消
- (3)中年層(40歳から64歳)
 - ・地域経済の活性化、コミュニティ・生活基盤の維持等の地域社会の持続性向上につながる施策展開
- (4)高齢層(65歳以上)
 - ・保健・医療、福祉等の分野について安心感のある施策展開の継続

3. 地域別の傾向から見える施策検討の視点

- (1)小牛田地域
 - ・都市機能を活かした若年層の移住定住対策の施策展開
- (2)南郷地域
 - ・地域資源を活かした過疎地域振興施策の展開

4. 居住年数別の傾向から見える施策検討の視点

- ・子育て、教育分野のニーズへの対応が移住・定住の重要な要素
- ・居住年数が長くなるにつれて住環境やインフラ面への期待の高まり
- ・定住イメージを描かせる中期定着支援の施策展開